

トキソウ

Pogonia japonica Reichb. fil.

ラン科

絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー

準絶滅危惧

選定理由

本県では従来は普通の植物であったが、湿地の消失により大きく失われ、稀産の植物となった。(現況:V2ー)

形態

トキソウ属植物は本県に2種産するが、いずれも絶滅危惧植物である。本属の植物はいずれも茎の中ほどに1個または2~4箇の葉が着き、さらに茎頂に1枚の葉状苞と1個の花を着ける。本種トキソウでは、花は横向きで半開し、紅紫色。顎片は長楕円状披針形、唇弁は側花弁より長く、中裂片は倒卵形である。

国内分布

北海道、本州、四国、九州、さらに千島、朝鮮、中国に分布。

県内分布

奥能登、口能登・加賀中央部、白山麓をふくむ南加賀。

生態など

地生の多年生草本。開花期は5~7月。

生育環境

日当たりのよい湿地。

危険要因

池沼開発、湿地開発、園芸採取、自然遷移、産地局限。



本多郁夫

分布図はありません。